

読書感想文コンクールについて by. 藤田利江

学校図書館経営顧問 藤田利江 氏が、司書教諭（図書主任）の時に、校内あてに配布した資料の抜粋です。藤田氏の熱意が伝わってきます。

青少年読書感想文コンクールに取り組みます。校内審査を通過した代表作品を、地区審査に出品しますので、次のことをお願いします。（略） **もっとも大事なことは「書くために読むのではない」ということです。**様々な本を読んで、今の気持ちを残しておきたい、誰かに伝えたい、と思うから感想文を書くのです。本末転倒にならないように日々の読書指導をお願いします。

〇〇小学校 図書館部

1 感想文について

- 1、2年生は800字です。400字詰めの場合、間違いが少ないですが、他のマスの大きい原稿用紙の場合、間違いが多くなりますので字数を確実に確認してください。
- 本文には、題名や氏名は書きません。1行目から文章にしてください。
- 3年生以上は、必ず3枚目の後半まで文章を書かせてください。2枚半では審査対象にならないと思ってください。
- 全員書き直し（清書）をします。コンクールに出すことは、そういうことです。そういう体験をすることで、きちんと書くことの意識が高まります。

2 代表作品について

- **代表作品は、先生が一度、文章を清書したものを渡すのが一番確実です。**児童だけの清書ではどうしても誤字・脱字が多くなり、何度も書き直しすることになって、かえって子どもにやる気をなくさせます。一クラス一人ですから、すみませんが労を共にしてください。
- **もっと読み手に訴える文にするために、もっと本人の気持ちを表現するために、図書館部なりのコメントをつけました。指導するときの参考にしてください。**あくまでも参考のコメントですので、担任の先生の指導を中心にしてください。「藤田先生に言われたから」と児童に押しつけることはされないように。

3 題名について

- 題名はとっても大切です。「〇〇を読んで」は不可。
- 感想文は書き手の訴えがある文です。何もなかったら感想文とはいえません。何があるかを、何を訴えるかを子どもと話し合ってください。その主となることが題名につながります。
- 一人で悩まずに、学年の図書館部の先生に相談してください。後から何度もやり直するのはお互いに疲れます。朝でも、放課後でも藤田を捕まえてください。

4 表記上の注意点

- 「 」は一行に独立させてください。思ったことでも「 」を付けて書かせることがあります。特に長い文は「 」を付けた方がいいです。
- 「 」文の二行目からは、一マス下げて書きます。間違いが多いので気をつけてください
- 点(、)がやたらと多い場合があります。一行に3個以上付くようでしたら、ちょっと考え直してください。並列など特別の場合は除きます。
- 段落が多すぎても、少なすぎてもおかしいです。学年と内容によりますが、内容の段落にしてください。当然のことですが、段落が変わる場合は、一マス下げて書き始めます。
- まだ未習の漢字は使わないようにさせてください。特別の場合は使用可です。逆に、既習の漢字はきちんと使わせてください。ひらがながやけに多い高学年の作品もときどきあります
- 送り仮名が間違っていることが結構あります。確認してご指導ください。

※ 厳しいようですが、教師の指導も評価されるコンクールです。教師の指導があったかなかったか、すぐに分かる作品も多いです。本校からは、素晴らしい作品でなくても、教師がきちんと指導しましたという作品を提出したいと思います。